1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

恒例の海プログラム

自然景観に恵まれ、地の利を得る潮騒JTCは、依存症の回復に向けて好条件を備えています。最大の魅力は太平洋の大海原（鹿島灘）に面していること。海水浴など夏場の海プログラムは入寮者に人気です。
（4、5ページ）

2014
8

メディア取材を受ける原則と匿名主義をめぐって

最近よく「テレビや新聞で潮騒ジョブのことが取り上げられていますね」という声を耳にします。受刑者の手紙にも同じような反応が多く書かれています。 ASKAの薬物事件や社会問題となっている「危険ドラッグ」の恐ろしさを伝えるのに、比較的「顔出し」に寛容な潮騒の取り組み事例がメディアには重宝しているようです。私はメディアからの取材要請にはできるだけ応じるようにしています。テレビや新聞の反響はとても大きく、問い合わせが相次ぎます。貧しい一民間施設の潮騒JTCにとって施設の存在が世間に知られる恩恵はとても大きいものがあります。

振り返ると、潮騒は発足時のボタンの掛け違いが尾を引き、なかなか新規入寮者が集まらず、施設運営に苦労した時期がありました。その時、数少ない味方になってくれたのが一部の新聞やテレビでした。目立った実績のない潮騒を取り上げてくれたことで入寮者が増え始め、施設運営の安定化につながりました。私はメディアによって救われた面を否定しませんが、だからといって売名行為を狙って無原則に取材を受けたわけではありません。先方の取材目的や番組の企画意図が理解できたからOKしたのです。今も取材を受諾する条件として、①プライバシーに対する配慮、②1回だけでなく潮騒への持続的な関わり、③映像の使いまわしはしない、を求めています。特にプライバシーへの配慮は自助グループやダルクにとっては生命線です。安全安心に依存症の回復に努めるためには「アノニミティ＝匿名主義」が大原則だからです。

ただ、この世界共通の伝統ある前提条件も日本社会にはストレートに当てはめにくく、潮騒JTCやダルクのような社会との中間施設では特に難しい面があります。というのも「匿名主義」を錦の御旗にしている限り、日本特有の閉鎖的な共同体の厚い壁はなかなか突破できないのでは、と思うからです。この国では人との関係はこちらが胸襟を開いていかない限り、相手はなかなか懐を開いてくれません。良い悪いは別にして、それが生活の知恵や処世術みたいになっています。同じ依存症でも犯罪や非行が絡む薬物問題では「回復・更正は自己責任」との風潮が根強く、匿名主義を容認する寛容な態度は育ちにくい風土があります。メディアも顕名（実名）主義が報道の基本で、凶悪な少年事件では少年法に反して一部週刊誌やネットの掲示板などで加害者の顔写真や実名が、さらし者のように公開されます。私はこの風潮を是認しませんが、「他人の不幸は蜜の味」とばかりに覗き見的な傾向をくすぐる、人間の醜悪な部分も無視できないと考えます。こうした冷徹な日本社会の現実に、ダルクは30年の歩みで地道に風穴を開けてきました。恐らく匿名主義に凝り固まっていたなら、今のように全国に70カ所近くまで関連施設が拡大することはなかったでしょう。プライバシーへの配慮は大原則ですが、ほどほどの態度で世間と折り合いを付ける「いい加減さ」も大事だと考えています。

（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

潮騒独自の「定食屋」開店に向け準備進む

～農場と連携し新鮮野菜を食材に～

潮騒JTCでは現在、新規事業として飲食店経営に挑戦しようと、専任スタッフらが準備作業を進めています。今年で完結する潮騒ファイザープロジェクトを発展させ、就労支援活動の一環として飲食店事業プログラムを導入し、薬物・アルコール・ギャンブル依存症者の社会復帰を促すのが目的です。

この国の長引く景気低迷や地域の依存症（とりわけ薬物依存症）に対する誤解や偏見などから、各地のダルクや潮騒JTCなどリハビリ施設で一定の回復をしても、実際には当事者が一般の仕事に就くのは絶望的な状況にあります。このため依存症の回復とともに、就労支援を施設運営の柱にしている潮騒JTCでは自前で就労の準備や訓練の場を設けることにしたものです。

開店する店舗は、最近増えている総菜をセルフサービスで選ぶ「一膳めし屋」形式の定食屋です。既に調理された多くの一品料理を、待ち時間なく客が好きなものを選んで、各自精算する大衆食堂です。一番の「売り」は潮騒農場で取れた新鮮野菜を使った各種の野菜サラダ（珍しい青パパイヤのサラダなど）と、鹿嶋の海の幸を利用した独自開発のラーメンとなる予定です。また、店舗には農場で収穫した朝取り野菜などを販売する直売所コーナーも設置する計画です。

今秋半ば頃の開店を目指し、専門家の力を借りながらも作業隊メンバーらが厨房やフロア、看板など内・外装工事に取り組んでいます。また、調理師免許の資格を持つ入寮者がスタッフとして専任されて定期的に準備会議を開き、店舗設計への助言や注文、必要な厨房機器の発注、メニュー構成や店舗名、開店時間などの話し合いを続けています。

◆市役所前の好立地でランチタイム主流に営業

店舗はカフェテリアだったスペースを全面改修します。場所は市中心部の鹿嶋市役所前で、隣り合ってカレー専門店があります。営業はランチタイムが主流となり、市役所職員や郵便局員、一般企業のサラリーマンなどが顧客として見込まれます。また、夜間営業も実施する予定で準備を進めており、夕方には潮騒の入寮者も定期利用ができる方向で検討しています。

既に一部ダルクでは飲食店事業に乗り出している事例があり、大阪ダルクでは施設近くに「ホルモンラーメン白寿」を昨年秋にオープンさせています。栗原センター長は「飲食店の運営はずっと温めてきた課題。ダルクの常識では過去の職業に就くのはスリップにつながるとしてマイナスとされてきたが、潮騒には飲食店経験者が多く、就労環境や条件を整えれば経験を生かして再挑戦できると考え、あえて潮騒独自に定食屋を開店することにした」と説明しています。乞うご期待！

海プログラム&BBQ大会

恒例の海プログラムを楽しむ
～潮騒農場の野菜バーベキュー大会も

潮騒JTCにとって夏の風物詩ともいえる恒例の「海プログラム」が8月11日、鹿嶋市の平井海岸海水浴場を会場に開かれました。今回の参加者は20人ほどで例年に比べてやや盛り上がりに欠けました。それでも参加者たちは午前中に海水浴やサーフィンを楽しみ、午後は相撲やスイカ割り、海中でのプロレスごっこなど、若い入寮者らを中心に海のレジャーを満喫しました。

この日は鹿嶋市宮津台の施設本部駐車場で人気のバーベキュー大会もあり、こちらは盛り上がりました。潮騒農場で取れた新鮮野菜の数々が提供され、手塩にかけて育てた潮騒農業自然隊（通称、赤服隊）や、日頃は縁の下の力持ちとして尽力しているデイケア施設のスタッフらが「農場の野菜は一味違う。甘みがあり美味しい」などと舌鼓を打っていました。

潮騒では高齢入寮者が増えたことから、これらの人たちの健康管理に配慮していますが、夏場は戸外での活動はもちろん室内でも熱中症への警戒を怠れません。本来なら「海プログラム」も真夏のギラギラした太陽の下で、入寮者全員が海のレジャーを楽しめるイベントにしたいところですが、トラブルや事故を考えると以前のように遠出したり、海の家を一軒借り切った形での取り組みは残念ながら困難です。

スタッフの皆さんは「潮騒は入寮者数が100人を超えており、車での移動にはとても気を遣う。加えて病院への送迎など忙しい日常の中ではイベントの日程確保が大変な上に、プログラム作りや準備にも苦労する。みんなが心を一つにできるイベントの機会を数多く設けたいが、だんだん難しくなっているのが実情。それだけに夏の海プログラムでは近場の海水浴場でもいいから、工夫を凝らして一日じゅう目いっぱい遊べる雰囲気だけはつくりたい」と話しています。

鹿島灘を臨む立地に恵まれている潮騒JTCでは、年間を通してサーフィンや釣りなど従来から海プログラムを充実させています。夏場ともなれば、本部施設（元は民宿）から下津海水浴場までは歩いていける距離だけに、入寮者の皆さんには海水浴プログラムが人気です。また、内陸部に向かえば北浦があり、こちらも釣りのメッカなので、海と湖や川魚が楽しめます。「なんだ、遊びのプログラムじゃないか？」と思われるかもしれませんが、クスリやアルコール、ギャンブルなど病的な依存ではなく、健全に“遊ぶ”ことができるようになることは回復の第一歩なのです。（み）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

今月のイベント参加報告

こんなイベントに参加しました、というご報告。

AA九十九里フェローシップに参加して

●さゆりの感想文

8月2～3日に千葉県の九十九里で一泊二日のAA（アルコール依存症者の相互援助グループ）フェローシップに参加させて頂きました。昨年もこのイベントに参加させて頂きましたが、泊りはせずに日帰りでした。昨年はまだ施設に入寮していて施設の仲間と初めての経験をしましたが、昨年12月に退寮してしまいました。ですから、今回は参加できないかなと考えていたのですが、私のスポンサーでもあります、ルミさんの配慮で今回も参加する事が出来て感謝しています。

当日は午前9時頃に施設を出発して12時前には現地に着きました。お昼はバーベキューでしたが、それまでに少し時間がありましたので、仲間4人と海に行きました。私は沖縄生まれの沖縄育ちです。海を見るのは久し振りでした。とても懐かしく思えて、ずっと眺めていました。お酒が止まって見る海は新鮮で、色々な思いをしながら暫し眺めていました。それも、ルミさんの私に対する配慮だな～と、本当に嬉しく思いました。

それから会場に戻って仲間と一緒にイカや焼き鳥など新鮮な物ばかりでバーベキューを楽しむ事が出来ました。顔ぶれも一年前と同じ仲間で、話もそれなりに弾みました。夕食は午後6時頃で、時間も多少ありましたので色々な仲間と分かち合いをして私の宝物として持ち帰りたいと思いました。夕食もとても美味しかったです。

夕食後、キャンドルミーティングを初めて経験しながら、先輩の仲間たちの「回復」と言うテーマで分かち合いました。私もこれからは、色々な経験をしながら12のステップを使い、今日一日クリーンで過ごし、断酒したいと思います。ルミさん、色々な体験をさせて頂いて本当に有難うございました、感謝しています。（サユリ）

●あやめの感想文

初めて、各地のAAの方々が集まるミーティングに参加しました。九十九里の民宿に着いてから、水着に着替えて海に入りました。とても気持ち良かったです。その後のバーベキューでは、新鮮なアジの開きや、ハマグリがとても美味しかったです。夜は、キャンドルミーティングをしました。いつもと違う環境でのミーティングでしたので、楽しかったです。ですが、喫煙OKのミーティング会場だったので、タバコの煙と臭いがとても苦痛でした。体調が悪くなってしまったので、最後までミーティングに参加する事が出来ませんでした。次は、出来たらミーティング会場は禁煙にしていただきたいです。

潮騒入寮者のココさん（左）と、潮騒を退寮しAAに参加しているさゆりさん（右）

九十九里の海岸で

今回宿泊した実川荘（AAメンバーの家族の方の民宿）の前で

NAジャパン リージョナル・コンベンションに参加して

8月21～24日まで延べ4日間にわたり、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで開かれた薬物依存症者が集い合う一大イベント、NAジャパンリージョナルコンベンション（10th JRCNA in TOKYO 2014）に参加しました。今回は会場が東京ビッグサイトで、しかも節目の第10回とあって大いに盛り上がり、各地から約1500人が参加したようです。メインスピーカーやステップ、セクシャルマイノリティ、女性ミーティングなど数多くの企画と、アディクトたちのハグの嵐が続きました。

でも、このコンベンション…私には苦い経験があります。今では笑い話ですが、忘れもしない2年前の事。今はやりの脱法ハーブ、いや今や覚醒剤を凌ぐほどの諸悪の根源となった「危険ドラック」ですが、私はこれによってワンデー（スリップ）してしまったのです。私はコンベンションというと、どうしてもあの日のことがよみがえります。なので、私にとってコンベンション期間中は鬼門のシーズンな訳です。

今回は、北関東エリアの代表として役割を頂き、なかなかスピーカーの皆さんの話を聞きに行く事が出来ず、残念でした。その上、初日から施設の方でゴタゴタがあり、いきなり責任を持たされ、てんやわんやでした。でも、残ってくれた仲間たちのおかげで、これといった問題も無く、楽しい3泊4日を過ごす事が出来ました。ただ、本当に心残りなのは、数々のイベントに参加出来ず、終始セキュリティーに追われ…たけど、鬼門の日々をクリーンで過ごせた事が一番のお土産でした。潮騒の仲間たちに感謝です。ありがとうございました。（サカ）

会場の東京ビッグサイトで記念撮影

横浜ダルクの施設長トムさん（後列中央）と潮騒メンバー

他の施設に移籍したキョウスケさん（右から2番目）と久しぶりの再会

とちぎアディクションフォーラムに参加してきました

7月20日に栃木県宇都宮市内で開かれた「第11回とちぎアディクションフォーラム」に行ってきました。当事者の体験発表と上岡陽江さん（ダルク女性ハウス代表）と信田さよ子先生（原宿カウンセリングセンター所長）のお話を聞きました。私にはちょっと話が難しかったけど、信田先生の話を聞いていて意外とDVの人が多いんだなと思いました。そして私もDV被害を受けていたことを思い出しました。夫婦で薬をやっていて、切れ目になるとケンカになり、その度に暴力を振るわれました。何回も警察に保護され、身を守るためにシェルターで過ごしたこともありました。でも、傷だらけになった自分がいざその傷が治ったら、優しかった所だけを思い出して、また旦那の所に舞い戻ってしまう、その繰り返しでした。あの頃は、そんな毎日がとても怖かったです。でも今は旦那の暴力から解放されてホットしています。もう、あんなつらい思いはしたくないです。（トクメイ）

潮騒農業

潮騒農場で夏野菜が順調に生育

～今後は青パパイヤの収穫が楽しみに

８月は上旬から中旬にかけて猛暑日が続き、農業隊メンバーらは連日、潮騒農場において炎天下での除草作業に追われました。そうした努力の甲斐あって農場の夏野菜類は順調に生育。自然条件や天候に左右されやすい農業ですが、潮騒では就労支援プロジェクトと連動させ、本格的な取り組みをしています。農業を通じて生産の喜びや仕事への意欲を喚起させ、就労への動機付けを図るほか、高齢入寮者や重複障害で就職が困難な人たちも「生きがいづくり」効果をもたらしています。今夏、潮騒農場で収穫した夏野菜はキュウリ、ナス、トマト、カボチャ、シシトウなどで潮騒の販売拠点であるＪＡ鹿嶋しおさい農産物直売所だけでなく、鹿嶋市宮津台の潮騒JTC本部駐車場でのテント販売も実施し、格安とあって近所の人たちにも人気でした。

現在（８月下旬）は、夏野菜の収穫が概ね一段落し、秋・冬ものへの端境期にあります。今後は作付面積を大幅に拡大した潮騒水田の水稲が収穫期を迎え、下旬には稲刈りを予定しています。10月には潮騒農場のサツマイモが、11月には戦略農産物に位置付けている青パパイヤが収穫できる見込みです。

先月の農業ミニフォーラム感想文（カツミ）

人生に意欲的に取り組めるかで人は運命を変えられる

～潮騒農業＆施設ミニフォーラムを通して実感したこと

私は現在、潮騒ジョブトレーニングセンターの運営方針で主に農業プログラムについて就労支援を指示、指導する立場にあります。施設内では農業自然隊に所属し、他と区別して分かりやすくするために、私たちのグループは赤い作業服の上下を着た、通称「赤服隊」と呼ばれています。

振り返ると、私の過去には農業的な職種とは全く無縁な歩みでした。若くして薬物依存に苦しみ、アウトロー人生そのものでした。何度か依存との決別を目指して各種の職業にも就きましたが、依存症の根は深く仕事で稼いだ賃金は、繰り返される依存にことごとく消費されてしまいました。当然ながら家族、友人、仕事、信用…何もかも失ってしまいました。このように過去の私は依存によって自分の人生を狂わし、「生活破綻者」そのものでした。

でも、紆余曲折を経て何ものかに導かれるように潮騒JTCにつながり、必ずしも順調とは言えないまでも、施設が提供する回復のプログラムに取り組めています。そして幸運にも農業プログラムを通じ、鹿嶋の豊かな自然と向き合いながら潮騒農業にも参加しています。先月の潮騒農業ミニフォーラムでは日々、野菜など収穫物の出来、不出来を目の当たりにして、気が付いた事を話させて頂きました。作物を作るにはその土地の天候や土壌、水などの条件がいかに大事かを教えられています。やはり農作物はその土地の風土に合ったものが昔から理に適っているようです。

この潮騒農場での作物栽培・収穫を通して、私は人間にも同じことが言えるのではないか、と確信するようになりました。自分がおかれている環境や境遇に逆らうのではなく、今の状況を与えられた試練として受け入れ、それを糧にして自分自身を育成（人格形成）し、高めること。このことに意欲的であれば、悲観的だった自分の運命も、新たな可能性に向かって切り開けるという、自信みたいなものが生まれています。過去は変えられないとしても、自分の未来は変えられるという言葉を実感しています。どれだけ自分の人生に意欲的に取り組めるかで、人間は運命を変えられるのです。

以上のようなことを農業プログラムで実感し、先の施設ミニフォーラムで話させて頂いたことで、今の自分の回復状態について自覚を深めることができました。やはり人前で話すことは大事なことですね。日頃、栗原センター長が話してくれる「人前で恥をかいた分だけ、アディクト（＝依存症者）は回復する」ですね。今後も、就労支援の指示、指導者的な立場で、意欲的に就労支援に関係する各作業に取り組んでいきたいと思います。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

鹿嶋琉球太鼓

たかおざきデイサービスセンター慰問

利用者に喜ばれ、夏場の辛い練習が報われた

久々のエイサーコメントです。鹿嶋市平井にある高齢者介護施設「在宅ケアセンターライフ in たかおざきデイサービスセンター」（運営・社会福祉法人すはま会）で８月５日、二回目となるエイサー（琉球太鼓）の演舞をご披露させていただきました。

薬物・アルコール・ギャンブル依存症という厄介なハンディを負う我々に、お声をかけていただき感謝・感謝です。二回目と言う事もあり、前回と一緒では芸がないと思い、皆で新曲を練習して披露させていただきました。まだまだ練習が足りませんが、利用者のお年寄りの皆様には楽しんでいただけたのでは、と思います。

前回も感じた事ですが、おじいちゃん、おばあちゃん達の笑顔、涙、声援を見て、聞いて、感じて、最後には我々が感動をいただいています。夏の練習は正直、とてもきついし、厳しいものでした（笑）。それだけに今回、やってよかったです。オファーがあれば、また叩きたいと心から思います。たかおざきデイサービスセンターの皆さん！！また声をかけてください。365日いつでも駆けつけます（笑）。この度は、本当にありがとうございました。練習に励み、また会える日を楽しみに待っています。（マコト）

辞めようとも思ったけど、エイサー

潮騒JTCが回復プログラムの一環として取り組むエイサー（琉球太鼓）に参加して、いろいろな気づきをもらっています。とにかく仲間と一緒に汗を流しながら、音楽演奏で心を一つにできることは素晴らしいと思います。ふだんの生活では個性あふれる仲間たちが、いざエイサーの演奏・演舞になると、不思議なことに団結が強まります。自分でも、次第に音が一つに調和していくのが分かります。そうした音を奏でる事が出来た時には、演奏者ながら自分の存在が感動的ですらあります。でも、練習の大変さなどから、時には辞めてしまいたいと思ったりすることがあり、自分には体調や意欲などで波があることが課題だと思い知らされます。そうした苦労を経ながらも、いざ人前で発表する機会に恵まれると、観客の皆さんの大きな拍手に「ああ辞めなくて良かったなあ…」とつくづく思います。そんな風ですから、今はとても楽しいです。仲間と一緒になって太鼓を叩けるエイサー、これからも練習してもっと上手になりたいなぁ～。（エゾ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

受刑者からの手紙

まだまだ回復実績が少ないこともあって各地の先輩ダルクが実施している刑務所メッセージは実現していませんが、潮騒JTCの特徴ある活動に受刑者との積極的なコミュニケーションを図る文通があります。他のダルクでも行われているかもしれませんが、センター長の私や担当者が頂いた手紙には必ず目を通しています。文章のうまい下手にかかわらず受刑者の皆さんの真摯な熱い思いは依存症回復に向けた道程に繋がるものです。塀の中の貴重なメッセージは施設にいる者にとっても自分たちを映す鏡です。（ユタカ）

人は本当にみんなに支えてもらい生きていると実感

当地に来て２年余り、僕も色々な事を考えてきましたが、やっぱり今後の自分の事が一番心配になります。また刑務所に戻らないだろうか？ 働く場所はあるのか？ 普通の人に戻って生きて行けるのか？ 考え出すと次から次へと不安や心配事が出てきて、切りがなくなります。こんな感じで何度も何度も繰り返し考えた末にたどり着いた答えは、僕が心配してしまう事はある程度クスリが止められる目途が立ってからだと考えることにして、今はただクスリを止める事だけを考える、というものでした。その後、すべての事はクスリを止めてからの話だ、と思えるようになりました。自分が薬物依存症であり、覚せい剤の前では自分をコントロールする事も出来ず、自分だけでは覚せい剤を止めるのも無理だと、素直に認められるようになりました。と同時に、今迄自分が迷惑をかけてしまった人、色々な事に巻き込んでしまった人、それらすべての人に対し申し訳ない気持ちにもなりました。そして出所後１年は、どんな事があってもクスリはやらないという目標も立てました。ですが、ここから先何をどう考えて過ごせばいいのか…？ そんな事を考え、今は日々を過ごしています。

一つ報告があります。職業訓練の期間を終え、教習所へ行き検定を受けました。卒業検定では車庫入れに不安はありましたが、何とか合格する事が出来ました。心の中が達成感で一杯になり、嬉しくて何とも言えない気持ちです。刑務所から教習所へと通い、練習して検定を受けさせてもらうには、刑務所や教習所の職員の方々の理解と協力なしでは決して出来ない事なので、周りの方々への感謝の気持ちをいつまでも忘れないように、と思っています。農業工場には、農作業やトラクターの乗り方、取り扱いなどを教える技官がいます。僕が大型特殊の免許を取得できたのは、間違いなく技官のお陰です。今回の職業訓練を通して、人は本当にみんなに支えてもらい生きている。そして一人ではできない様な事さえ出来てしまう、という事を実感しました。当所の農場では、トマト、人参、じゃがいも、小豆、カボチャを作っています。トラクターに乗ったりもしているので、潮騒へ行ったら農作業を手伝いたいと思っています。

潮騒まであと１年２カ月くらいです。引受人が再び許可となった事は伝えたと思いますが、今は仮釈でも満期でもどちらでもいいと思っています。といっても、ネガティブな、後ろ向き的な、どちらでもいいという意味ではありません。仮釈でも満期でも、潮騒へ行く事はもう心に決めたので、僕にとって仮釈と満期の違いは、潮騒へ行くのが数カ月早くなるか遅くなるかの違いだけなので、心の中ではもう整理が終わってます。現時点での悩みというか心配事は、人と話をするのが苦手なので、潮騒のみんなの輪の中に入ってうまく生活していけるかどうかが気掛かりです。話がとんでしまいましたが、僕が今感じている事や考えている事をありのまま書いてみました。毎日太陽の下で農作業をしているので肩や腕は真っ黒に日焼けしています。潮騒へ行っても太陽の下で働き、汗をかいて今の様に健康な体でいられる様に頑張りたいです。

（北海道　K・Y）

薬物に対する栗原さんの真剣な考えと深さに驚く

「潮騒通信」もいつも送って頂きありがとうございます。「どっこい生きてます」のネーミングがいいですね。本当に毎回、毎回楽しく読ませて貰っております。まだ直接お会いした事はありませんが、皆様の顔も少しずつ覚えてきました。そして栗原さんのASKA事件についてのお考えを読ませて頂きました。栗原さんの薬物に対しての真剣な考え方に少しだけふれさせて頂き、その考えの深さに驚きました。こんな風に依存症に対して向かい合っている人もいると思うと、私など本当に自分の甘さに反省し恥ずかしい限りです。

ジョブトレの皆様も色々なイベントに参加してとても生き生きと輝いているみたいに私から見ればうらやましいです。皆さんそれぞれに悩みをかかえ込んでおられるのに負けずに頑張っておられる姿勢が素晴らしく感じます。

（北海道　Y・M）

領置金が無くなってしまったのでお金を差し入れて

キクさん、お手紙ありがとうございます。ニュースレターを楽しく読ませて頂きました。ダルクという施設のことを全然知らなかったので、大変良く分かりました。一日でも早く潮騒ジョブトレーニングセンターに行ける様に、日々生活して参りたいと思います。ところで私は、満期まであと10カ月位なのですが、領置金がもう無くなってしまい、日用品が思うように買えません。出来たらでよろしいのですが、日用品と切手が買える位のお金を差し入れして下さい。また、引受人の件ですが、先生たちのお話を聞くと、更生施設なのであと１カ月位でOKの返事がきそうです。まだわかりませんが、その日が来たらよろしくお願いします。

（福岡県　K・K）

なくなった母への供養を込めて薬物を断つ覚悟

私の懲役刑も、いよいよ満期を迎えます。想えば、NPO、JTC、栗原代表とスタッフの方々とは、司法の方から私を知ったこと、最初に励ましの便りを栗原代表から来信頂いて、もう２年の文通が続きました。そして拘置所への面会、裁判での上申書提出、JTC潮騒通信の差し入れ…と本当にこの二年余りご厚情を頂きまして、心より御礼申し上げます。有難う御座いました。当所でも、北海道ダルクの方々を中心とした薬物回復教育やミーティングに参加し、よき経験、学びができました。今後出所以降もNPO、JTCとの関わりを望んでおりますので、必ず連絡をさせて頂く所存ですので、今後とも宜しく御願い申し上げます。

この２年の月日でNPO、JTCの方々の御活動も、報道ニュース番組出演以降、更に知名度も全国的に上がり、益々のやりがいの中、変わらぬご多忙が続くと存じますが、栗原代表、キク様、方々様の更なるご健康とご多幸を心から願っております。多分これが最後の私からの発信と成ります。私事で恐縮ながら、実母が亡くなったとの知らせが実弟よりありました。もうこれで、「孝行したい時に親は無し」を実感せざるをえない日々です。悲しみと悔しさが強くありますが、ここは気持ちを強くして乗り越え、こんな私をいつも許してくれ、待っていてくれた母に供養を込め、せめて母が生きていた証しになるよう薬物を断つ覚悟です。

（北海道　K・M）

女性の場合はどこに問い合わせれば良いのか教えて

栗原様からのパンフレットが届くと、ゆっくり時間をかけて拝見させて頂いています。これを見るたびに、一日でも早く栗原様の元へ帰る事が出来れば良いと思います。栗原様の所へ帰る事が出来れば、きっと薬物（覚せい剤）を止める事が出来ると思うばかりです。栗原様、私は覚せい剤を止めますので、ご指導の程宜しくお願い致します。それと、これは凄くビックリした事なのでが、栗原様が運営しています潮騒ジョブトレーニングセンターがテレビのニュース番組でやっており、栗原様もテレビに出ていたので驚きました。栗原様自身も凄く頑張って、一人でも多く薬物を止めさせる為にと考えている事や、それを心の底から望んで下さっている事が良く分かりました。

栗原様の施設では女性の方々も薬物を止める為に頑張って生活をして居る様子ですが、私の知り合いの女性にも何人か薬物を止める為にはどうすれば良いか、苦しんでいる人がいます。もし栗原様の方で、女性の場合はどこに問い合わせれば良いのかを教える事が出来るのであれば、私に教えて下さい。それと、もしその女性が受刑生活をしているとしたら身元引受人に成る事は出来るのかも教えて下さい。

（北海道　T・M）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

8月のお題　**丑の日**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.10

センター長　栗原 豊

今でもそうだが、各地のダルクで俳句づくりを施設のプログラムに取り入れているケースは寡聞にして知らない。ただ、ご多分に漏れず高齢化の波が押し寄せ、老後をどうしたら意義あるものとして生き抜くかは、ダルク共通の課題として浮上している。日本ダルク代表の近藤恒夫さんはフォーラムなどの場で「片足を棺桶に突っ込んでいるヤク中は薬物をやめなくてもいい」と冗談交じりに話す。近藤さん一流の逆説というか、含蓄のある言い方だが、あながち否定できないように思う。家族も仕事も何もかも失った高齢依存症者が薬物依存でかろうじて生きながらえているなら、「もう頑張らなくてもいい」と助言したくなるのも人情だろう。

かく言う私もその年代だけにリアリティーを感じるが、やはり人生の最期は薬物なしで終えたいとの願いはよく分かる。ある意味で依存症の回復は依存対象の置き換えのようなところがある。より心身へのダメージが少ないものへと依存対象を移せるなら、それにこしたことはない。私のように刑務所で俳句という新たな依存対象を見つけられた者は幸運だった。だから、この経験を一人でも多くの入寮者にも分け与えたいと思う。各種スポーツや太鼓演奏など体を動かすことが難しくなった年配の依存症者にとっては、自分の依存症人生を今に生かす手段として俳句づくりは意義ある精神活動だと考える。そうした実感を持ちながらも、鹿嶋市に移って潮騒の前身施設が産声を上げてしばらくは、まだ仲間たちには施設のプログラムとして提案できる段階にはなかった。当時は私の俳句づくりが単なる老人趣味の道楽ぐらいにしか、周囲の仲間たちには映らなかったようだ。たまに真似する人はいても、真剣に取り組もうとする雰囲気はなかった。潮騒で本格的に俳句の同好会をつくる動きが出てくるのは、数年後のことである。（次号につづく）

鰻の荷
嫁ぎ先より
送ったよ

特選句

シマ

原句の蒲焼は季語に無いので少し変えました。この詠は娘さんの嫁ぎ先が鰻の獲れる所か、また養殖の有名な浜名湖の近くかも、そこから鰻の蒲焼セットを送ったメールが着たのかも。気軽な音信に親子の情を思う句で心温まる。

均等に
父親が切る
鰻かな

特選句

ショウイチ

最近では鰻も高価になり普段に食べる訳にもいかない。しかし丑の日などには年中行事の一つとして全国的に食べる。家庭での料理か、子供達の不満が出ぬ様父親が特別に包丁を持ったのか、微笑ましい家族の句です。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

今月の秀逸句

鬼

鰻喰ひ
匂い沁む服
帰路急ぐ

秀逸句

仕事を終えた夕方仲間と鰻を食べ一杯やっての帰路かも。服に蒲焼の匂いが沁みる気がするし、待ってる家族にも少し気が引ける思いもする。都会のサラリーマンを思う句です。

カート

火の粉舞ふ
鵜も楽しさの
長良川

秀逸句

長良川の鵜飼は約千三百年前か行われ、天皇の御料鵜飼ともなり今に伝わる。鵜を飼育して鮎などを獲るが、今では漁業と云うより観光の面が大きい。篝火の火の粉が舞うのも幻想的で観る人も鵜も一時は楽しく古風な風情の句です。

ユタカ

鰻には
丑の日といふ
厄日かな

秀逸句

丑の日は十二支の中にあり年に四回あるが、夏が一番使われる。またこの日に鰻を食べる習慣は江戸時代の平賀源内の宣伝に因るとも。合わせて夏の疲れを鰻の栄養で補ったとも。鰻は食べられるので大厄日である、俳諧の憐れの句。

アベ

高級の
天然鰻
のみを食ふ

秀逸句

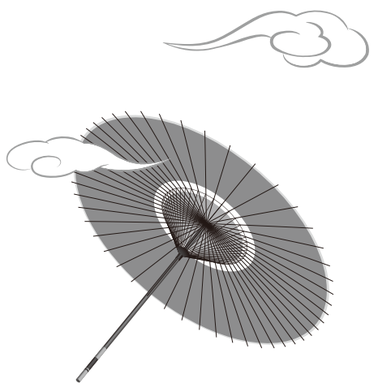
日本鰻も絶滅危惧種に指定されるほど減ってきたので高価になったし、どの店で本物を食べられるかも知れない。利根川沿いの笹川町では八千円くらいで食べられる店がある、願望をも込めた俳諧の句です。

トム

千住町
鰻が縁で
友となり

秀逸句

東京足立区千住は昔に日光や奥州街道の一番目の宿として栄え、名は漁師が網で千手観音を拾い揚げた故事に因るとも。また、この辺りの昔は荒川や沼地が多く鰻も多く獲れたとも、今でも鰻屋が多いが「尾花屋」などは有名。鰻屋で知り合った友人と云うのも面白い句です。



佳作

長吉
鰻串丼にたれ旨きかな

コバ
夏バテに鰻食べたし銭はなし

ヒロ
鰻屋の前を素通り匂いだけ

あやめ
鰻重を食べて凌ぐやこの疲れ

イルカ
この暑さ鰻を食べて元気かな

レイコ
夏バテを鰻の力で危機回避

ヨウ
ああ鰻食べたいにゃん貴方とね

オノ
高価なり年に一度の鰻かな

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アディクトのユウです」 No.1

薬物依存症のユウです。16歳の時に高校を中退し、フラフラと遊んでいた頃に初めてライター用のガスを吸う事を覚えました。当時は昼間から公園でヨダレを流しながら手当たり次第にコンビニで販売されているガスを万引し、吸っていました。これが、自分の記憶の中にある薬物との出合いの最初だと思います。ですから、僕にとってのゲートウェイドラッグはガスでした。

その後、お決まりのようにシンナーにも手を出し始めました。学校に通っていなかったので、当時はアルバイトをしながら、週末にはシンナーを吸い、平日は働く。そんなパターンの日々が続きました。ともかく若い時から学校も仕事も長く続く事がなく、実家暮らしだった僕は、働いたお金を全て自分の遊びと薬物に使い、人生の後先を全く考えず、楽しさだけを追い求める10代を過ごしました。

そんな風に楽しさだけを求めた結果20代に入り、自分の運命を決定づけるメインの薬物に魅入られます。自分が今、潮騒JTCで回復に励んでいるメイン依存薬の覚醒剤との出合いでした。（次号に続く）

8月のバースデイ

ナベ

体を大切にクリーンを通します！

セイジ

3年が経ちました！
これからもよろしくお願いします

ハギ

来年も迎えられたらうれしいです

ガク

あと1年で40才なので
色々考えている事があります！

フク

奇跡の3ヶ月！
めざせ半年！

タケオ

これ以上、
年をとりたくありません

潮騒9周年フォーラムのプログラムが決まりました！　12月7日（日）鹿嶋勤労文化会館

12：30～	フォーラム受付開始
13：00～	開演～開会の辞（総合司会コバ） 潮騒エイサー隊紹介ビデオ（10～15分）上演
13：15～14：00	首都圏ダルク連合エイサー競演
14：20～14：40	開会行事来賓あいさつ
14：40～15：00	潮騒ファイザー報告～ヒトシ（パワーポイント）
15：00～15：15	農業隊メンバーによる体験談発表
15：15～15：30	潮騒ファイザープロジェクトの評価・意義・課題
15：30～15：50	日本ダルク、近藤恒夫さん講演
15：50～16：00	（休憩）＝和太鼓の設置
16：00～16：45	潮騒・鹿島灘太鼓演奏
16：45～17：00	栗原センター長による謝辞
17：00	閉会の辞（コバ）

潮騒和太鼓隊は
このフォーラムが初舞台です。
ぜひ見に来てください！

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年8月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

8月の行事予定

16日	秋元病院メッセージ
16日	エリア会議
17日	リカバリーパレード会議
18日	新宿とまり木薬物・アルコール相談
21～24日	NAコンベンション
24日	家族会
28日	映画会
30日	ギャザリングコミティー会議
31日	アディクションセミナー

9月の行事予定

4日	俳句会
13～14日	北関東エリアギャザリング
14日	秋元病院メッセージ
15～16日	仙台慰問（エイサー）
20日	沖縄ダルク20周年フォーラム
21日	第5回リカバリーパレード「回復の祭典」
27日	仙台ダルクフォーラム

献金を頂いた方（8月15日現在）

・蛭町 郷 様　・起山眞美 様
・渡辺洋子 様　・箕輪裕子

献品を頂いた方（8月15日現在）

・大類　末吉 様

今月も献金・献品をいただきました。
心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記

厳しい残暑が続いたと思ったら一点して天候不順、頭の回転も鈍りがちですが、佐世保の同級生殺人はショックでした。かつての酒鬼薔薇事件を想起するまでもなく、時おり思い出したように起こる猟奇的事件にたじろいでしまいます。依存症とは直接関係ないとしても、不気味な狂気の世界を感じさせます。潮騒の入寮者は薬物やアルコール依存などで破滅の人生を歩んできただけに、世間の常識やメディアの正論とは少し異なる視線で、この事件が見えるようです。依存症は孤独が引き起こす自傷の病ですが、当事者は被害と加害の両面を演じる、極めて特異な体験者です。対極にある両者の痛みを同じ人格が体現することは、もしかして絶対矛盾の被害と加害の対立構造を超える、人間関係の新たなビジョンの可能性がそこにあるかもしれません。世の中が「健全」であることは万人が望むところでしょうが、実際は明と暗、光と影、プラスとマイナスがあって、かろうじてバランスが取れている面も否定できないように思います。こうしたネガ部分は人間の成長とともに意識下に抑制されるのが普通ですが、不幸にもそうならない人がいます。善悪を飛び越えて狂気の世界に迷い込み、闇の中でしか生きられない人たちとどう向き合うか？ 私たちは自分たちの理解を超える事態に遭遇すると、つい性急に解決や結論を求めたり、感情的な対応を促したり、あるいは対象者を得体の知れない異端として排除しがちです。でも、そうした「分からなさ」が人間のネガの反映だとしたら、いずれまた形を変えて私たちに逆襲してくるようにも思います。そう、311大震災と巨大津波・原発事故、そして映画のゴジラのように。（市）

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2014年8月号

Contents

P❷ メディア取材を受ける原則と匿名主義をめぐって
P❸ 潮騒独自の「定食屋」開店に向け準備進む
P❹ 海プログラム＆BBQ大会
P❻ ・AA九十九里フェローシップに参加して
・NAジャパン リージョナル・コンベションに参加して
・とちぎアディクションフォーラムに参加してきました
P❽ 潮騒農場で夏野菜が順調に生育
P❾ 鹿嶋琉球太鼓
たかおざきデイサービスセンター慰問
P❿ 受刑者からの手紙
P⓬ しおさい俳壇　8月「丑の日」
P⓮ どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～「アディクトのユウです」

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39
E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2014年８月25日発行　SSKU増刊通巻、第4897号

潮騒の和太鼓メンバー

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　**定価 100 円**（会費に含む）　1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 8 月 25 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4897 号